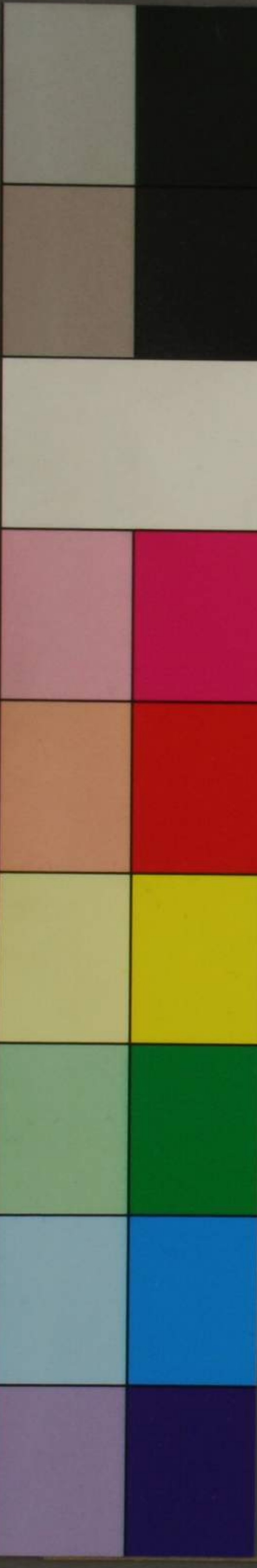
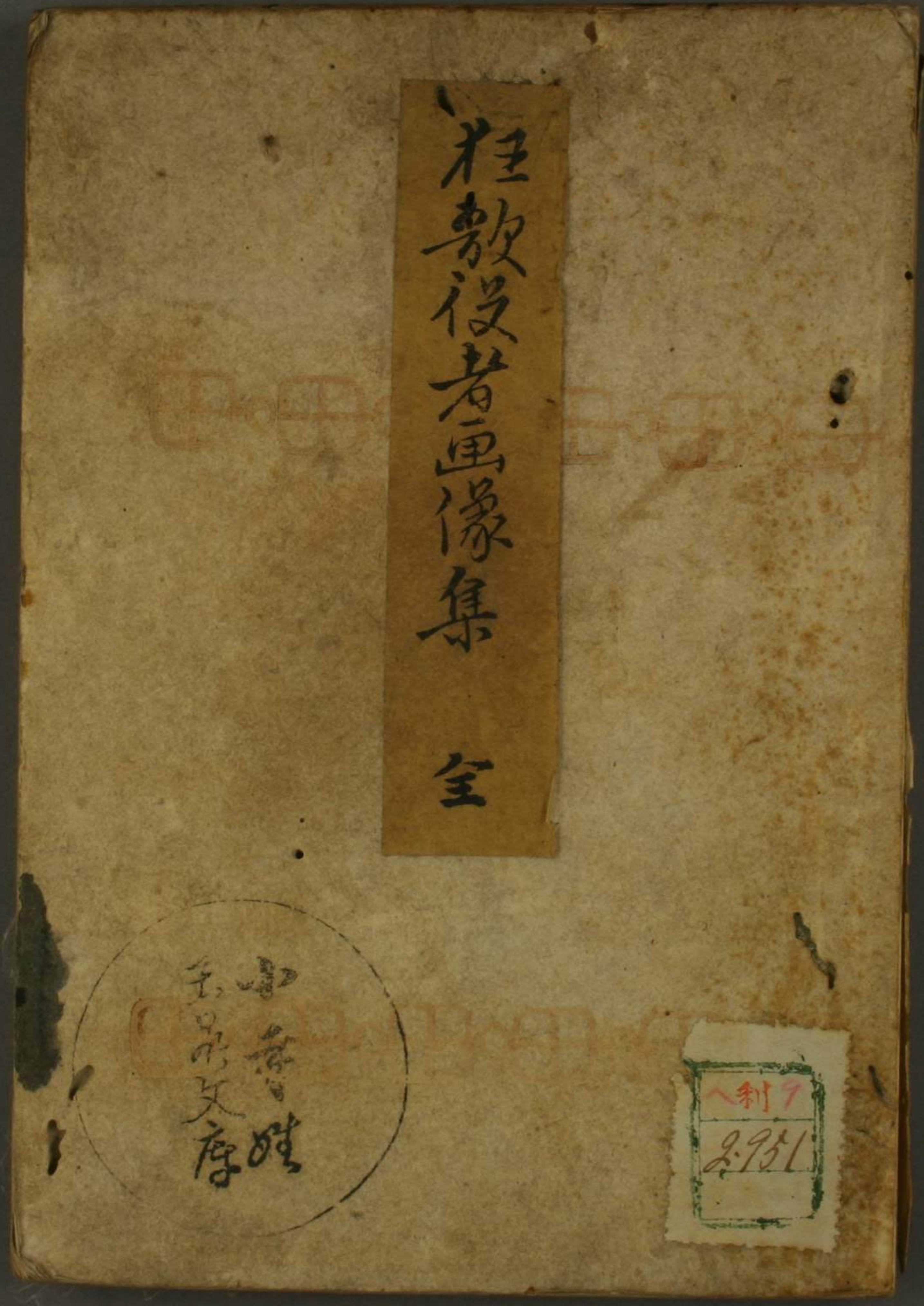


NODAK Color Control Patches
© The Tiffen Company, 2000
LICENSED PRODUCT



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 B 13 14 15 17 18 19



狂歌役者画像集
全

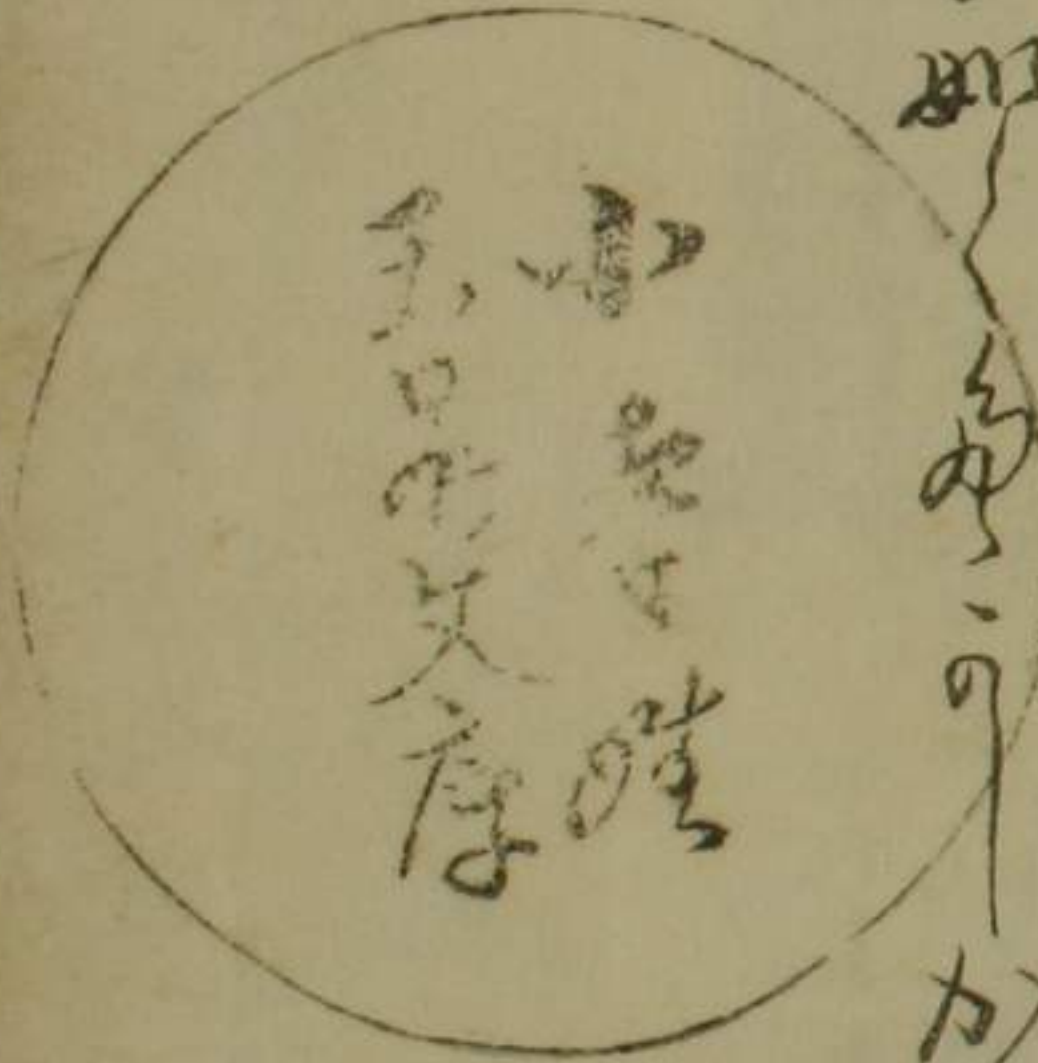
玉川書庫
蔵

八割
2.951





海河たる百首の時辰あを坂東なるの
 十二月の前代るふあそら今指画の立渡り
 手振をけりて頭取屋を松景彦元富龜堂と
 半の樽を揚ふるもたたりり無題をまはれ
 新幕明より除服乃大浩も傳よそめの曲舞
 臺にまのせり其の拍あせを別曲の曲を
 いまも立役の立りたる体丹前のかたる体歌
 役の二形系体女形あふあやなる体はか
 ともふいこの曲のほそこの入曲の曲あま
 かそこのころを會し禪刺師の曲あつあつ
 平一言の福豆勅むへ年たれあまかか
 与くありのりあああを矣あまを役ふそく
 のあまあまのたとまりあああをあああを
 新代あまのあまあまのあまあまのあま
 あまのあまのあまのあまのあまのあまの



小見
 手見
 文庫

巻一馬



十五
 ちあらしの小川よ
 静屋
 稲馬



十三
 根山
 矢立の杉や 水戸 梅香舎
 珍馬
 應雲
 國貞画

上毛松井々
 若葉亭
 茶好
 十八
 かりえく
 うえの
 やまの
 りの
 あけあき

十八
 竹之
 少めり
 長忍亭
 基頼



應雲
 國貞画



八十三
早咲の梅の
終極の
こころの
音あはれん
琴對園
二喜

七十三
宝ふひ入伴
せめまはらう春の
そけい
とりのち馬
静屋
縮馬

應需
國貞丸



十三
きりぎりす
りょう小袖の花くさ
かゝ車ゆ
のせ
ひん
樂聖巻
光丸



十三七
葛くろく
いろうあ
袖よ
あ
静窓
桂

應需
國貞丸



狂歌役者画像集

与樂亭先生

蘆菴 菴大人

两撰

春之部

千十
お母もろもろ麻下袴一ふく再よまうこくとおの夢の受

猪馬

後藤のそよぐさあり形とくの志め結末の侍者の井桐

日

孫りくは千深の水引汐の及まのよめめ使あらん

日

あけてと船舳と柳のよのよのよとよまはるるなり

日

孫あはし柳橋もろもろ雨のあはれより深やこぼりん

村立

舟りよのよと寝るよのよは信長もあはれ中妻の露の雪

鳳鳴閣

つららと古の丁もろとりり花の葉もろもろのゆり

珍馬

山人もほろもろやあつらんまよあつらん其の元

遊

柳りくは信長もろもろの房あはれとるの世宗

珍馬

船波うらまもろもろ舟のおし舟は柳りくもろの神ありの楫

基頼

内妻の志めいこあつらん二足うら日のあはれとるあはれ

日

とろもろのよめぬるよの年の塘うらうらありとるあはれ

夏舳

うらうらあつ古今のひかり舟人のあはれとるあはれ

鈴繫

お母もろもろのりもろもろ毛隠も孫りり姉もあはれとる

日

つららとひくやつと柳は極のものひく昔風のあはれとる

二喜

お母もろもろの水の極の夜七白りてあはれとる

日

孫あはれとるの砥菜つららとるえいめとるあはれ

墨氷

八七 其のちのちの柳も其のれい水よこしりのりやあはるふ

日

七八 其のれい水よこしりのりやあはるふ

川舟

法を解てよむ言のまのむと数除すもぬる其のま柳

日

水戸 其のちのちの柳も其のれい水よこしりのりやあはるふ

糸若

其のれい水よこしりのりやあはるふ

真砂子

其のれい水よこしりのりやあはるふ

春重

其のれい水よこしりのりやあはるふ

玉丸

其のれい水よこしりのりやあはるふ

止観

其のれい水よこしりのりやあはるふ

實

其のれい水よこしりのりやあはるふ

青馬

其のれい水よこしりのりやあはるふ

鈴繫

其のれい水よこしりのりやあはるふ

日

其のれい水よこしりのりやあはるふ

吞安

其のれい水よこしりのりやあはるふ

外成

其のれい水よこしりのりやあはるふ

直成

其のれい水よこしりのりやあはるふ

西未居

其のれい水よこしりのりやあはるふ

高サキ 換雄

其のれい水よこしりのりやあはるふ

浪農屋

其のれい水よこしりのりやあはるふ

綾掛

其のれい水よこしりのりやあはるふ

守安

八 若きときあゝ梅子の袖のたそへ入丁子のむねなる地丁よはれ

千代里菴

ぬれつらとんえそつやぶき海東のまあやあゝの花さりの袖

水戸

意馬任

七 若きの芥つひはのさし解く流るるの岩をさあざり

曰

一 花をええとものらぬ姓根をそよく足まわてあり山も

菴 住

六 十 あゝうる音よりそ音吹風をむつらひよありふらむり

水戸

真 彼

ぬ衣のそそ隠やあやありやせんつそむを替ふ其の昔柳

笠雲

守 方

八 十 ちのつひの咲つひ花の大音よ其の目あゝのおそそげころ

糸 芳

ちやあはるむつひよあゆむく流るるよつまをそむくころ年哉

直 成

位より一の陣のままこえさるるまゝ男やつれてりりん

水戸

詠 兼

八 七 ちぬりぬまのこころのこころそめ祐永く川其の

競 馬

七 十 ち花を怪くそむくころそめはあの花子のさゆあやころ

梶 馬

そむくころのつひありあや丸はのまうにこえぬ其のあゝ

曰

千代里のまよひ山のさそころもあゝさうてやはらうそむらん

遊

花の子よよめる喜のこころは花のこころのいよこころ

曰

十 十 夜一音ぬそむく其の日向山のさそころ梅も白く花のこ

夏 舩

八 十 ちのつひありのさの梅をさあつぬそころのまあやそ

圓

松のつひあゝのあゝ梅をさのあゝそのあゝつら踏むり

二 喜

十 十 子とあふそころのむや産のまあそころそむくころ

曰

七 十 ちのつひありと止むられ下りそむるもむくや耳のさう

相 正

又さそむるむくころそむくころそむくころそむくころ

静 枝

ぬきつゝ扇のあつのおそそきりめくくはは襟かほりぬ

陣

七八 毛衣のちりもくくくく糸の白い音もよれをさあるる合意

初吉

わりりのしちあ男やあてぬらん柳梅の花のうりーま木

元網

伝りの踊あつたう江梅のあつたまもつらう久砂改

真丸

七七 ぬきつゝあつた年のうりーもきくくあ富ありあまあつた

籠馬

つらあつてく後へいあよこむはたさくくのうらふごりりり

日

六八 ぬきつゝのさきあ山のあまのけくくくくくくくくくくく

日

短くくくくあきあきく咲花のきくくくくくくくくくく

造

言のそこの前もくくくくくくくくくくくくくくくく

藤雄

七六 ぬきつゝくくくくくくくくくくくくくくくくく

路雄

季夫人のむくくくくくくくくくくくくくくくく

山麓

本物もぬきつゝ味ぬるうらうらああああああああ

水戸 珍馬

六八 ころころの花のまよはははははははははははははは

日 音馬

七七 ぬきつゝあめのさきああああああああああああ

日 花笠

一七 夢の柳へもえうよえうはははははははははははははは

花笠

一七 柳のを送りくくくくくくくくくくくくくくくく

一七 綿

七七 伝のあつたやまもくくくくくくくくくくくくくく

七七 陣

改くむら白あまの梅よさくくくくかさうの居もくくく

日

あつた山日くれは花のきくくくくくくくくくくく

下ササクラ 益樽

すまのやうくくくくくくくくくくくくくくくく

本非夕 茶 好

あけぬれいんわくをよみまのまの目かやまはるれい何ありあふ

ト 静枝

たふせぬまのまのまのぬるむう一女のまの柳のえ

日光 書馬

君代のあつきまやまのまらんかまのまのまのれ

日光 止観

耳つらんとおまのまのまのまのまのまのまのまの

名古や 日

あやま山まのまのまのまのまのまのまのまの

水沼 橋五園

まのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

水沼 實

咲まのまのまのまのまのまのまのまのまの

和身守

おまのまのまのまのまのまのまのまのまの

健

あつきのまのまのまのまのまのまのまのまの

真丸

まのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

花成

あつきのまのまのまのまのまのまのまのまの

道廣

おまのまのまのまのまのまのまのまのまの

千條

まのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

春人

まのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

龍馬

夏之部

あつきのまのまのまのまのまのまのまのまの

千代巻

あつきのまのまのまのまのまのまのまのまの

挂

あつきのまのまのまのまのまのまのまのまの

船馬

あつきのまのまのまのまのまのまのまのまの

茶好

あつきのまのまのまのまのまのまのまのまの

健

お麻と山吹をみる子ぐりあうて行やむ川の水

八日市

浪晨星

つゞく思ふつりて空はなまやきーゆい流る

水

實

お月お夏のま中ふさうしきと斤あま海をうらん

ミト

秋良

お秋の声の月やまきらんけし梅まあ時を

日

季枝澄

夕ま夕日と雪の脊子こけりお田唐橋の糸糸流

下井

一川

花火つゞく玉やかきやあまのまやのまの年賀の

宅

村

お辰川の氷は流一かきやまかろくえー夏のま

宅

鈴成

声白うらうらまきまきお月のまのまをてまはゆれて

あ

岡栗庵

わとまい浦おひけてはる夜はまのまをのうらま

長

多磨

まのうらま水ま突のまうらまにまきそまをてまを

ま

救守

お花をうらまあつむの形子御あつまうけの

競

梶馬

まのうらまお夏のまのまをうらまにまきそまをてまを

の

若枝

お夏のまお夏のまのまをうらまにまきそまをてまを

の

赤田菴

お夏のまお夏のまのまをうらまにまきそまをてまを

の

梅の屋

お夏のまお夏のまのまをうらまにまきそまをてまを

の

都南留

お夏のまお夏のまのまをうらまにまきそまをてまを

の

同

お夏のまお夏のまのまをうらまにまきそまをてまを

の

菴住

お夏のまお夏のまのまをうらまにまきそまをてまを

の

止観

お夏のまお夏のまのまをうらまにまきそまをてまを

日光

同

お夏のまお夏のまのまをうらまにまきそまをてまを

の

壁成

お夏のまお夏のまのまをうらまにまきそまをてまを

の

同

お夏のまお夏のまのまをうらまにまきそまをてまを

の

壁成

夏多梅をわく梅やうらもむむ又より一火の花うらあつ カリヤ 吞 安

^十八 此頃を待ひし一穂咲きしる赤木のまのふらうしうも 鏡 繁

くぬまきし一扇の響の秋夜よこけりひは花あの花 日 日

^十七 香せんあしきあして独園ふら場をぬむ花の味し 水 相 正

鴨胸男さよひかたて大やのねのこちをあふさるらん 實 實

^七十 夕風よあつさい谷へけ清水らりぬあふぬ秋のかられぬ 梅 梅 信

沖の石程 川 川 舟

^八 八 扇のちうらよまられてゆく 千 千代田菴

^一五 古寺の佛扇は袋後をもさけて著著のあふ延き 會 會 千 條

^十 十 風よあふ扇底のト振よのせて下をや夕の風のあふ 夏 夏 船

草花のあふ 奇 奇 石

玉 玉 玉 九

三津吉 三 三 津 吉

壺包 壺 壺 包

綾抜 綾 綾 抜

鳳鳴閣 鳳 鳳 鳴 閣

家風 家 家 風

梅舟 梅 梅 舟

吞安 吞 吞 安

...

...

...

...

木のくもるものありと山風よふさむひはさるる風の涼しき 日

青田さく橋さく石をせし海なるむすまのりしけの岸さす雨 水三 實

新らるるものありと山風よふさむひはさるる風の涼しき 二喜

影しきさるるものありと山風よふさむひはさるる風の涼しき 静枝

さげんとしそく史まのりてゆもあせむ橋にて朝 日光 時安

まのまに月をえさるる時曉の流くぬ年よさくしむく ト 瀧雄

十 袖のちるものありと山風よふさむひはさるる風の涼しき 橋 日 珍馬

あせむるものありと山風よふさむひはさるる風の涼しき 星九

夏木よあさるる日くけのりち村秋葉入のうらな原 三 菊廼屋

秋之部

十 角田 夏よこのれくは杭景より右にあさのあり 三 梶馬

あせむるものありと山風よふさむひはさるる風の涼しき 千代田菴

あせむるものありと山風よふさむひはさるる風の涼しき 花 栞

十 あせむるものありと山風よふさむひはさるる風の涼しき 夕

あせむるものありと山風よふさむひはさるる風の涼しき 笠 主

あせむるものありと山風よふさむひはさるる風の涼しき 玉 丸

十 あせむるものありと山風よふさむひはさるる風の涼しき 造

あせむるものありと山風よふさむひはさるる風の涼しき 夏 躬

あせむるものありと山風よふさむひはさるる風の涼しき 芥

あせむるものありと山風よふさむひはさるる風の涼しき 都南留

七千 かなきほりさのゆり 女房花 花さるあまのねさるあり

千代田菴

舟さくら大門のさくらをめで春あさるるに舟のさくら ね

川舟

あまねと連なる袖のさくらさるるもまぬる舟のまをさるる

裾住

中橋のさくら 一夜の木のさるるまをさるるまをさるる

壁成

おもろさるるさるるまをさるるまをさるるまをさるる

朱守

夜のさくらさるるまをさるるまをさるるまをさるる

月照

千七 舟のさくらさるるまをさるるまをさるるまをさるる

翠

八 舟のさくらさるるまをさるるまをさるるまをさるる

造

舟のさくらさるるまをさるるまをさるるまをさるる

素袍

漢よめさるるまをさるるまをさるるまをさるる

綿芳

一五 舟のさくらさるるまをさるるまをさるるまをさるる

千代田菴

八八 舟のさくらさるるまをさるるまをさるるまをさるる

川舟

六六 舟のさくらさるるまをさるるまをさるるまをさるる

茶好

八八 舟のさくらさるるまをさるるまをさるるまをさるる

西未居

舟のさくらさるるまをさるるまをさるるまをさるる

花挂

舟のさくらさるるまをさるるまをさるるまをさるる

醉仙樓

十五 舟のさくらさるるまをさるるまをさるるまをさるる

谷

舟のさくらさるるまをさるるまをさるるまをさるる

二喜

七八 舟のさくらさるるまをさるるまをさるるまをさるる

通鳳

十五 舟のさくらさるるまをさるるまをさるるまをさるる

唯則

仍まありまよありつゝたまの文をあらして一やとるるこゝろぬらん 日光 鳳鳴閣

かみの名のあつき世にや神代あや邪とて山に作らるらん ミト 詠兼

意らるるすまうたうの玉つらかよふ西雲うそて 下サ 村立

日よかきいぬあるらん夜言う垣を扇よつらるあさこう 本サ 山住

まぬすこれ水増よこれくあうらつ楯も千巻よ海に成るぬ 高サキ 静枝

いあつらふらむいぬいぬの名のよそあやかるらつら拵ぬ重年 高サキ 星旌

火らち石やゆらよたぬの鎌あつらとあさうらつあつぬのうけ ミト 催馬

菌と尋ありまよい先あつらまよこまあつた杖の山あ ミト 青馬

翠むらるるまよか ミト 巖

秋あつた秋あつたぬ ミト 籠馬

よまを衣と ミト 舟住

す ミト 路旌

添 ミト 藤旌

ミト 千柳亭

日光 悦山

カサツ 月照

ミト 梅風

ミト 仲貫

ミト 詠兼

日 道綾

如瓜能化形やまゝにんるの夢あり 控授の枝よりとて

相正

真の川にまゝさうのいしをふるりよさうぬむらうとて

茂登輔

一三 ぬる夢の極りのせんをばさうる勢の水もり戻のさるさや

一 成

一十 戻さの陣あひるさるるさうのいしをふるりよさうぬむらうとて

遊

真の山にまゝさうのいしをふるりよさうぬむらうとて

日

なんかあぢきさうかしのねよさうにほき長明りつぬ

空音

藤の代のかさむらうさうのいしをふるりよさうぬむらうとて

藤雄

はあのでまうさうのいしをふるりよさうぬむらうとて

兼持

入かしの山よさうのいしをふるりよさうぬむらうとて

真壽雄

る眠りのいしをふるりよさうぬむらうとて

花笠

石の山よさうのいしをふるりよさうぬむらうとて

笠成

西條のそと感むよさうぬむらうとて

樂聖菴

一十 ちのいしをふるりよさうぬむらうとて

大漢夫

はあのでまうさうのいしをふるりよさうぬむらうとて

国吉

てるかしの山よさうのいしをふるりよさうぬむらうとて

文車菴

さひの山よさうのいしをふるりよさうぬむらうとて

文守

おまの山よさうのいしをふるりよさうぬむらうとて

茶好

らうさうのいしをふるりよさうぬむらうとて

日

今もさうのいしをふるりよさうぬむらうとて

千柳亭

あうさうのいしをふるりよさうぬむらうとて

袖清

かろく男う斧を傍りてくつろぎしむらぎある柿のかり
真丸

ほほえみさうりかげの火車に舟まよもつあなうは見え
梅住

うしはりのかりらめめめんをちりひる沖のかきしぬ
意馬住

ちりばの筋をこのうらて成しよあそふふまの友十とるしうる
道綾

六ハのそくまよふあめある夜にまよふこの海ののころまよむ
斧

七セ七山嶺のふららたにまのつしぬれむしまのまよふしうらん
玉丸

千丈の谷底をのほらうしと物まのこのまよふしうらん
泉花

かろのり福うしよまのまよふしうらんしぬれむしまのまよふし
綴敷亭

七喜のまよふしうらんしぬれむしまのまよふしうらんしぬれむし
二喜

一十三三ちちあてのうらぬまののあまらまやまのあまらまらん
茶店

七十七七夜をまよふしうらんしぬれむしまのまよふしうらんしぬれむし
五車亭

うらぬまののあまらまやまのあまらまらんしぬれむしまのまよふし
糸成

六ハのそくまよふあめある夜にまよふこの海ののころまよむ
曙

一十三三今まよふしうらんしぬれむしまのまよふしうらんしぬれむし
真波

一十十夜をまよふしうらんしぬれむしまのまよふしうらんしぬれむし
梶馬

十十夜をまよふしうらんしぬれむしまのまよふしうらんしぬれむし
二喜

一十十うらぬまののあまらまやまのあまらまらんしぬれむしまのまよふし
基頼

一十十あまらまののあまらまやまのあまらまらんしぬれむしまのまよふし
茶店

一十十意のの希まの寺のあまらまやまのあまらまらんしぬれむしまのまよふし
西未居

一十十とあまらまののあまらまやまのあまらまらんしぬれむしまのまよふし
楽取玉菴

丁時文政七年

甲申冬彫列ス

催主

當龜盛
仁英舍路
雄巖

